

第224回 昭和の森自然観察会

ぴっかぴかのどろだんごをつくろう！

～昭和の森のどの土を使ったら即席どろだんごが作れるのでしょうか？～

丸山泰三（千葉市）

日 時：2010年8月8日（日）13～15時 天気 晴れ

参加者：84名（大人33名、子ども51名） 指導員16名

担当指導員：須田聰恵、高井昭夫、丸山泰三

梅雨明け早々から猛暑日が続き、当日も、最高気温33°Cという予報のせいか、午前中の来園者は疎らで、午後の観察会参加者数が気になりましたが、受付開始時間頃から、三々五々家族連れが集まり始め、関係者一同安堵しました。

観察会は「どろだんごを作ったことのある人？」という質問から始めましたが、約1割弱の6～7人の子どもがパラパラと手をあげた程度でした。続いて「昭和の森のどの土を使ったら、即席どろだんごが作れるのでしょうか？」と、昭和の森の地層の断面図を高く掲げ、各層の特徴を説明するとともに、それぞれの土を入れたケースを見せて、問うたところ、赤土（関東ローム層）という解答が大多数でほつとしました。そこで関東ローム層の成り立ちと赤褐色の理由、また表土（黒土）の黒い訳等を説明しました。



次に、「どろだんごはどうして固まるか？」という問の解説で、関東ローム層は、大きさの違う粒子の土（砂・シルト・粘土）で構成されており、その粒子間には水の膜がある。それを強く握り締めることにより、大小の粒子が強く絡み合い、粒子間の水が押し出され固まるというメカニズムを、漫画チックな絵で説明したら、大きく頷いている方が多数見受けられました。



それから、3班に分かれて、八幡神社に通ずる道の両側で、即席どろだんご作りに、適当な湿り気の赤土（関東ローム層）を、各自袋に入れて持ち帰りました。どろだんごの製作は、赤土の採取場所近くの木陰を選び、それぞれの担当指導員から、「どろだんごの作り方は、百人百通りあること」、「約1時間という短時間で作る即席どろだんご」であり、「乾燥」に配慮すれば、水を使い過ぎないこと等を伝えた後、作業を開始しました。第1ステップの土台作りでは、両手で土を固く握る動作を実演して見せたものの、女の子には、思うように行かず、難業のようでした。特に今回は未就学児童の参加が目立ち、親御さんの手を借りていた場面が多く見られました。そして約1時間の作業を終え、ぴっかぴかのどろだんご作りに成功した方には、ビニール袋を渡し、アフターケアの必要性を話しました。失敗した方には、家に帰って、時間をかけて再挑戦して見て欲しいと、乾いた土と一緒にだんごを持ち帰って貰いました。

まとめとして、①参加者の主な感想は、「土台作りは難しかったが、楽しかった」という多数の子供さん。「子供を超えて夢中になってしまった」、「このような単純作業を、家族みんなで夢中でやったこと最近はなかった」、「私は失敗してしまいましたが、家に帰って3人で勝負してみたいですね」というお父さんお母さんなどなどでした。

②来園経験はあるが、この自然観察会には初参加の方が多く、昭和の森公園という自然の中で、この体験的学習（遊び？）を家族そろって行ったことにより、より身近に自然を感じてもらい、若干なりとも、自然に対する親近感を抱いてもらえたのではないかと思っています。